

経営比較分析表

福岡県 新宮町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cb2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	75.19	87.97	3,240

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
29,729	18.93	1,570.47
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
22,571	3.65	6,183.84

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

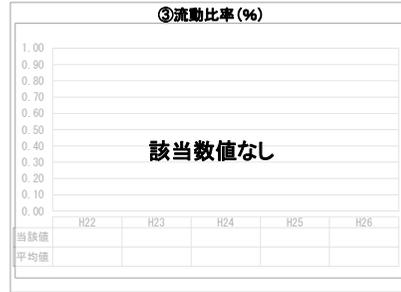
1. 経営の健全性・効率性



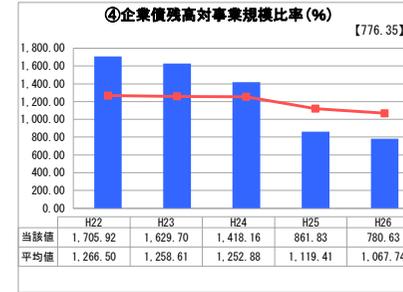
「単年度の収支」



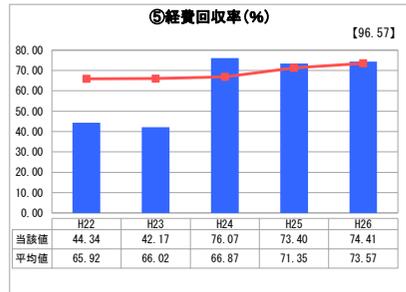
「累積欠損」



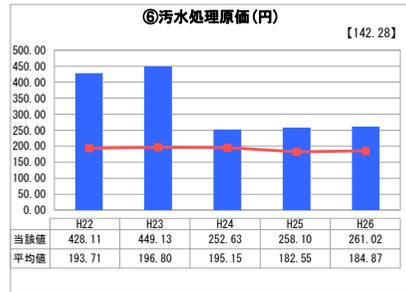
「支払能力」



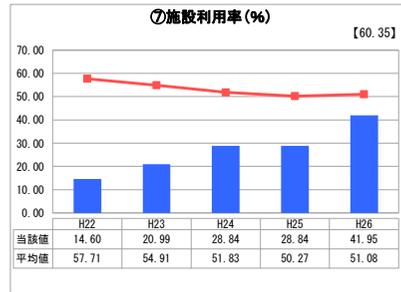
「債務残高」



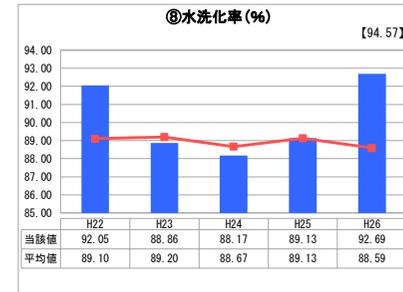
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

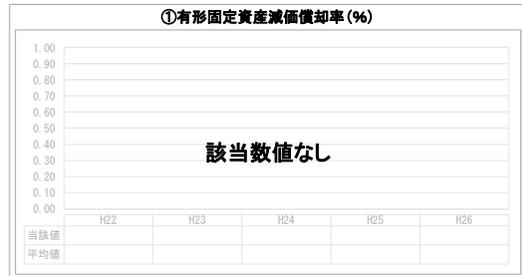


「施設の効率性」

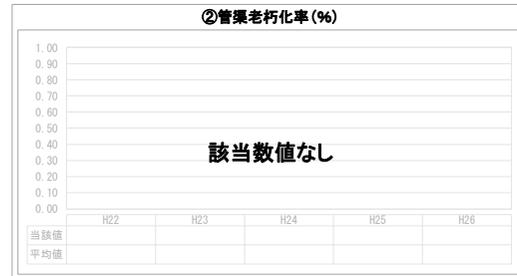


「使用料対象の捕捉」

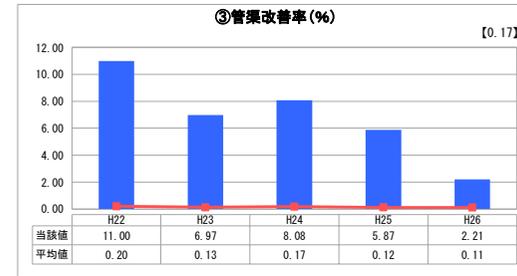
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

本事業は、新宮処理区(平成2年度供用開始)、中央処理区(平成21年度供用開始)の二処理区での事業である。
 ここ数年の経費回収率の増加については、中央処理区の開発及び面整備に伴う接続の増加によるものと思われる。また、水洗化率についても同様で平成32年度までは増加傾向であると考えられる。
 一方、汚水処理原価が類似団体平均値を上回っていることについては、処理方法や施設の立地状況により維持費が高まっているものと考えられる。
 今後、流入量の増加に伴い処理槽の増設が予定されているため、維持費も今後増加するものと思われる。

2. 老朽化の状況について

新宮処理区については供用開始から二十数年以上経過しているため、新宮ポンプ場において、平成24年度に長寿命化計画を策定し、六年計画で改築更新を行っているが今後も適宜改築更新が必要である。
 また、管渠については五十年を経過するものがあるため、長寿命化計画を策定して改築更新を行う計画である。
 なお、新宮処理区は、汚水処理を福岡市に委託しているため、福岡市和白水処理センターの施設改築更新に係る費用の負担が発生する。

全体総括

二つの処理区を持っており、それぞれの方向性を検討していきたい。
 長寿命化等の計画に基づき随時更新等を行い必要に応じダウンサイジング等計画の変更の見直ししていく必要があると考えられる。
 平成30年度には企業会計へ移行する予定であり、適正な使用料体系の見直しが必要となる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。